

私立倉吉北高 福井 貞子

1. 第1報で鳥取県倉吉緋の模様の変遷と特長について述べたが、引続いてその起源を究明する。山陰の代表的な緋は倉吉緋、米子浜緋、広瀬緋等であるが、その起源について諸説がある。そこで緋の起源について調査研究したのでその概要を報告する。

2. 諸文献、諸記録にもとづいて現地調査をし合わせて民芸資料庫に保存する緋の実物調査をする。綿作と藍作の起源と関連させ、他県の緋業発展と比較検討した。

3. 調査結果から考察した緋の起源は、藩政時代から綿、藍等の盛んな(山陰第一)米子地方で宝歴(1750)のころから灘飛白なだかすり、寛政年間(1789)には絞木綿の生産が盛んとなった。その影響を受けて倉吉町鍛冶職稲鳥大助が文政初期(1820)に一定の花鳥山水の絵緋を織り出し米子、島根県広瀬に普及させた。広瀬町の医者長岡謙詳の妻さだが米子で緋製織の指導を受け広瀬に文政中期に広めている。

全国的に有名な久留米緋は1801年に起こり、伊予緋は文化年間(1804~1817)、備後緋は文政年間(1818~1829)と記録されている。これらの地方よりも早く米子では自然発生的な散り緋、乱れ緋が無名の人によって考案された。これは、白木綿、藍の生産をやらなければ生活できない低い生活だったため各庶民の間に緋が創案される素地がひそんでいたといえる。